

# 「文化財協力法案成立記念国際シンポジウム」 危機にさらされている世界遺産を どう守るか

助成団体  
| 社団法人 日本ユネスコ協会連盟

平成18年(2006年)10月24日、日本ユネスコ協会連盟は、NHK、毎日新聞社との共催による国際シンポジウム「危機にさらされている世界遺産をどう守るか」を東京国立博物館で開催した。平和構築のための文化財保護協力法の重要性を内外に発信する本事業を、公益性の高い国際シンポジウムと評価し、助成を行った。



## ■ 文化財協力法案成立記念国際シンポジウム 「危機にさらされている世界遺産をどう守るか」開催

日時:平成18年(2006年)10月24日(火)13:00~18:30  
会場:東京国立博物館 平成館大講堂(東京・上野公園)

第1部  
講演:「文化復興による国家再建」  
オマラ・カーン・マズーティ(アフガニスタン・カブール  
国立博物館長)

「アンコール遺跡の今～遺跡保存へ向けて～」  
ロス・ボラス(カンボジア・アプサラ機構副総裁)

「コルディリエーラの棚田と無形文化の保護」  
テオドル・バギラット  
(フィリピン・前イフガオ州知事)

「発掘によるアジナ・テベの発展」  
サイドムラッド・ババムラーエフ  
(タジキスタン・国立古代タジキスタン博物館長)

第2部  
記念講演  
「文化遺産の保護協力と文明間の対話」  
平山郁夫(日本画家・ユネスコ親善大使)

パネルディスカッション  
～文化遺産保護の国際協力と平和～  
コーディネーター:西村幸夫(東京大学教授)パ  
ネリスト:平山郁夫、テオドル・バギラット、ロ  
ス・ボラス、前田耕作(和光大学名誉教授)、はな  
(エッセイスト)

## 危機遺産の3分の1がアジアに分布

現在、ユネスコの世界遺産リストに登録されている世界遺産の件数は文化遺産644、自然遺産162、複合遺産24の計830(平成18年<2006年>7月現在)を数える。本来世界遺産は、普遍的な価値のある「人類の財産」として、未来に伝えるために保護されるべきものである。しかし、世界には武力紛争、自然災害、大規模工事、都市開発、観光開発、商業的密猟等により、重大な危機にさらされている世界遺産が数多く存在する。

それらの世界遺産は危機遺産として「危機にさらされている世界遺産リスト」に登録され、国際的な協力のもと支援を受けることになる。一度危機遺産リストに登録されたものの危機遺産から脱した例としては、カンボジア王国にあるアンコール・ワットやアンコール・トムで知られるクメール王朝の遺跡「アンコール」が挙げられる。「アンコール」は、内戦による破壊や略奪行為等により、平成4年(1992年)に世界遺産に登録されると同時に危機遺産に登録。日本やフランスの積極的な修復支援によって、平成16年(2004年)に危機遺産から外されることになった。

一方、コンゴ民主共和国のように、「ガランバ国立公園」「ヴィルンガ国立公園」等5つの自然遺産が世界遺産に登録されながら、地域紛争による難民流入や密猟等により、すべてが危機遺産リストに登録されるというケースも発生している。

平成18年(2006年)7月現在、危機遺産リストに登録されている世界遺産は31件。大地震で崩れ去ったイランのバム城砦、紛争により失われたアフガニスタンのバミヤン遺跡、急激な都市化により崩壊の危機にあるネパールのカトマンズの谷、社会構造の変化が伝統的な稲作文化・自然環境に被害を及ぼしているフィリピンのコルディリエーラの棚田等、危機遺産の3分の1がアジアに分布している。さらに前述のカンボジアのアンコール遺跡等に至っては、紛争による破壊の危機は脱したものの、近年では急激な観光開発による新たな危機を迎えている。

これらの危機遺産を救い、未来の世代へ伝えるために「何ができるのか」「何をしなければならないのか」、今一度真剣に問い直す時期にさしかかっている。

## 「SOSアジア世界遺産」プロジェクトとして開催した国際シンポジウム

危機遺産に対する取り組みとして、日本ユネスコ協会連盟は、「SOSアジア世界遺産」プロジェクトの一環である国際シンポジウム「危機にさらされている世界遺産をどう守るか」を開催した。同シンポジウムは、今年6月に採択された文化遺産国際協力法を記念して企画されたもので、アジア諸国の危機遺産の現状や課題を知り、今後何ができるのかを「文化の国際協力で築く平和」という視点から考えようというもの。

当日は、崩壊の危機にある遺跡を持つ国から招いた専門家による講演、日本ユネスコ協会連盟副会長・ユネスコ親善大使である平山郁夫全日本社会貢献団体機構名誉会長の記念講演のほか、前田耕作和光大学名誉教授、はなさんらによるパネルディスカッションが行われた。

特に、平山郁夫名誉会長の「文化遺産の保護協力と文明間の対話」と題して行われた記念講演は、ご自身の被爆体験をもとにした平和への切実な願い、平和構築のために文化面で日本の果たすべき役割について語られ、参加者は熱心に耳を傾けた。

今回のシンポジウムによって、近隣アジア諸国の世界遺産がどのような危機に瀕しているのか、その現状と課題が浮き彫りになった。文化財協力法のもと、今後、日本がどのような役割を果たすべきなのか、法制定の根底に流れる“思い”を汲み取ってこそ、文化遺産の保護協力を通した平和の構築に近づいていけるのではないだろうか。



### 危機にさらされている世界遺産(平成18年<2006年>7月現在、31件)

危機遺産登録年	国名	世界遺産名	危機遺産登録年	国名	世界遺産名
昭和57年(1982年)	エルサレム(ヨルダン・ハシミテ王国による申請遺産)	エルサレム旧市街とその城壁群	平成12年(2000年)	パキスタン・イスラム共和国 イエメン共和国	ラホール城塞とシャリマール庭園 古都ザビド
昭和60年(1985年)	ベナン共和国	アボメイの王宮群*	平成13年(2001年)	エジプト・アラブ共和国 フィリピン共和国	アブ・メナ フィリピン・コルディリエーラの棚田群
昭和61年(1986年)	ペルー共和国	チャン・チャン遺跡地帯	平成14年(2002年)	アフガニスタン・イスラム共和国	ジャムのミナレットと考古遺跡群
平成 4年(1992年)	ギニア共和国及び コートジボワール共和国 インド ニジェール共和国	ニバン山脈正自然保護区 マナス野生生物保護区 アイールとテネレの自然保護区群	平成15年(2003年)	ネパール王国 コートジボワール共和国 アゼルバイジャン共和国	カトマンズの谷* コモエ国立公園 城壁都市バクー、シルヴァンシャー宮殿、及び乙女の塔
平成 5年(1993年)	アメリカ合衆国	エヴァグレース国立公園*	アフガニスタン・イスラム共和国 イラク共和国	パーミヤン渓谷の文化的景観と古代遺跡群 アッシュール(カラット・シェルカット)	
平成 6年(1994年)	コンゴ民主共和国	ウィルンガ国立公園	平成16年(2004年)	タンザニア連合共和国 イラン・イスラム共和国	キルワ・キシワニとソゴ・ムナラの遺跡群 バムとその文化的景観
平成 8年(1996年)	エチオピア連邦民主共和国 コンゴ民主共和国 ホンジュラス共和国	シミエン国立公園 ガランバ国立公園 リオ・プラタノ生物圏保護区*	平成17年(2005年)	ベネズエラ・ボリバル共和国 チリ共和国	コロとその港 ハンバーストーンとサンタ・ラウラ硝石工場群
平成 9年(1997年)	コンゴ民主共和国 中央アフリカ共和国 コンゴ民主共和国	カフジビエガ国立公園 オカピ野生生物保護区	平成18年(2006年)	セルビア共和国 ドイツ連邦共和国	コソヴォの中世建造物群 ドレスデン・エルベ渓谷
平成11年(1999年)	コンゴ民主共和国	サロンガ国立公園			

※日本語の世界遺産名は、UNESCO世界遺産センターが発行している英文の世界遺産リストに基づき、日本ユネスコ協会連盟が可能な限り忠実に翻訳したものです。  
\*2007年7月、「エヴァグレース国立公園」(アメリカ合衆国)、「リオ・プラタノ生物圏保護区」(ホンジュラス共和国)、「アボメイの王宮群」(ベナン共和国)、「カトマンズの谷」(ネパール)の4つの世界遺産が危機的状況を脱したとしてリストから削除されました。

### 参加者の声

- 社会が不安定ななかで、各国が文化遺産の維持に努力していることが分かった。日本も大いに協力するべきだ。
- 世界の危機遺産が抱える問題に、国際社会が協力して取り組んでいかなければならないという危機感を感じた。

- 具体的な話を聞くことができたので、今後何をすべきか考えるきっかけになった。

会場で行ったアンケートより抜粋

## 国際シンポジウムを開催して



寺尾 明人氏  
社団法人  
日本ユネスコ協会連盟  
教育文化事業部長

講師の方が口を揃えて仰っていたのは、「国は異なっても、抱える問題に共通点が多い。同じような悩みを抱えながら、皆、活動を続けていることが確認できた。これから活動していくうえで勇気もらった」ということでした。それは、観光と保護、近代化と伝統等、

バランスをどのようにとっていくかということだと思います。

日本でも同様の課題を抱えています。今後ともこのようなシンポジウムを通じ、世界遺産とどのように向き合っていくべきなのか、広く啓蒙活動を行っていききたいと思います。